

宮崎県防災会議地震専門部会（第3回）議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和7年1月23日（木）14：00～16：00

場 所：宮崎県庁防災庁舎4階 防43号室

（対面・オンラインのハイブリッド開催）

出席者：杉山委員、馬場委員、早田委員、原田委員（議長）、丸山委員、村上委員、山下委員、大嶋委員（代理）、桑畑委員（代理）、晴山委員、有水委員、児玉委員

2 議事要旨

（1）津波浸水シミュレーションの結果（暫定）について

①津波の予測の概要

事務局からの説明内容

- ・ 津波の予測フロー確認
- ・ 計算に使用した条件等

委員からの主な意見

- 各計算条件について、変化要因等の確認。
- 護岸、堤防、防波堤等について、今回の計算に反映できるL2レベルの耐震性を有しているものがなかったことは手法上やむを得ないことではあるが、L1対策の効果が分かるような想定をして自治体の努力を社会に伝えることも大切ではないか。

②津波浸水シミュレーションの結果（暫定）

事務局からの説明内容

（浸水面積について）

- ・ 浸水深が1cm以上となる面積は、県全体で90ha（0.6%）増、串間市で100ha（8.5%）増、延岡市で80ha（2.5%）増となった。
- ・ 串間市と延岡市で浸水面積が大きく増加した要因としては、地形データ（標高）の更新や潮位の変更が考えられる。

（浸水深について）

- ・ 浸水深の差分については、全体の23%が-5cm～+5cmの範囲となった。
- ・ 地域によっては、潮位の変更が浸水深増に影響したと考えられる。
- ・ 浸水深の増加が特に大きかった島野浦島（延岡市）、都井岬（串間市）については、地形データ（標高）の更新が影響したと考えられる。
- ・ シミュレーションの結果は暫定であり、今後市町への確認作業の結果も通じて精査を行う。

委員からの主な意見

- 島野浦島や都井岬以外にも浸水深の増加が大きいところは、要因分析や精査が必要。

- 要因分析や精査にあたっては、計算条件に係るデータの正確さという観点のほか、人口分布といった人的リスク、避難場所の数や観光客が多い等の地域特性といった社会的リスクという観点も重要である。
- 市町によっては浸水深が大きい区域の面積が減少となっているところもある。それが「安全」と捉えられることがないように留意を。

(2) 津波浸水想定図のフォーマット等について

事務局からの説明内容

- ・ 作成する図面
- ・ 図面の作成方法

委員からの主な意見

(浸水深等の配色について)

- 変更案として示されたものは、見づらいと感じる。特に高齢者には見づらいようで、子どもも見間違ふことが多い。
- 変更案を採用する場合は、一定の値で等値線を引く等の工夫が必要ではないか。
- 現行版は色相の異なる黄緑色が安心情報として受け取られる可能性があるため、変更案を支持する。
- ハザードを示す方法として、今後は紙のアナログ版とピンポイントの値を確認できるデジタル版の両方が必要になると考える。

(その他)

- 津波浸水開始時間の凡例には、「未満」や「以上」が示されていないので示すこと。
- ランドマークには、緊急輸送道路や駅、線路も追加すること。可能であれば浸水の有無も表現できると良い。
- アニメーションも作成することとなっているが、市町の意見も反映すること。